

知ろう使おう広げよう 地域の足

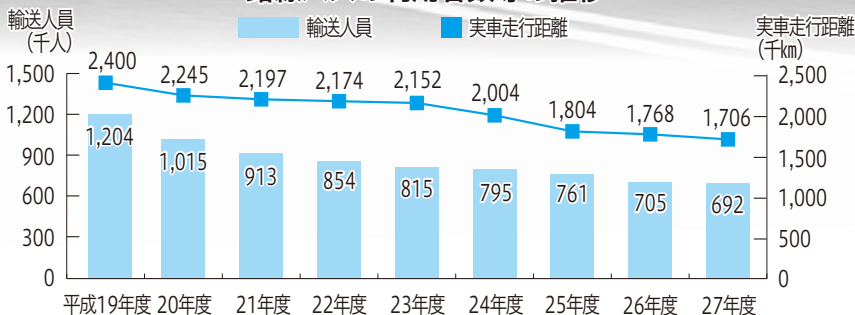
— 持続可能な地域公共交通に向けて —

15歳以上の自宅外就業者・通学者の移動手段

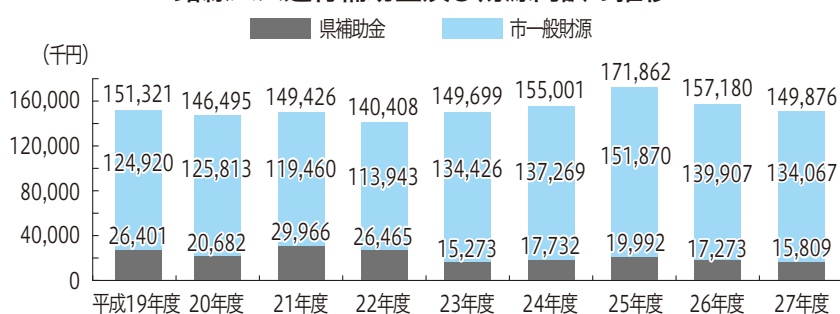
(平成22年国勢調査) (%)

交通手段	全国	東北	山形県	鶴岡市
徒歩だけ	6.3	6.5	5.5	6.2
鉄道・電車	22.7	6.9	3.6	1.2
乗合バス	6.8	4.4	1.3	1.1
勤め先・学校のバス	1.0	1.2	0.7	1.4
自家用車	43.5	67.2	76.5	78.7
ハイヤー・タクシー	0.2	0.2	0.1	0.1
オートバイ	3.5	1.3	0.8	0.6
自転車	14.6	11.1	10.6	10.1
その他	1.3	1.3	0.9	0.6

路線バスの利用者数等の推移



路線バス運行補助金及び財源内訳の推移



本市の公共交通の今

通勤、通学、通院、買物等で利用する鉄道やバス、タクシーなどの公共交通。高齢者や学生をはじめ自家用車などの移動手段を持たない人たちが日常生活を送るために重要な役割を果たしています。本市では、三十四路線で運行されている民間の路線バスを中心に、鉄道、市営バス、タクシー、デマンド交通（利用者がいる場合のみ運行する仕組み）、福祉有償運送、スクーバス等が公共交通網を形成しています。

地域からバスがなくなったらどうなるでしょうか。東北一の面積の本市では、自家用車等を持たない住民の移動を、路線バスを中心とする公共交通が支えています。今回の特集では三月に策定した「鶴岡市地域公共交通網形成計画」と公共交通活性化に向けた取り組みなどを紹介します。九月二十日は「バスの日」です。この機会に公共交通の大切さを考えてみませんか。

◎問合せ 本所地域振興課 ☎25・2111 内線522

鶴岡市地域公共交通網形成計画 (計画期間：平成28年度～32年度)

基本方針 - 目指す将来像

「人」「文化」がいきいきと交流し、 市民とともに支える「持続可能な公共交通」の実現

～将来の「鶴岡市」のあり方を見据え、コンパクト+ネットワークを形成～

基本目標・達成度の指標と各プロジェクト

基本目標	目標達成度の指標	目標達成のためのプロジェクトと施策
市民のお出かけを支える、「持続可能な」公共交通体系を確保します	<ul style="list-style-type: none"> ①市内バス路線の平均乗車密度の増加 ②路線バスの財政負担割合の減少 	交流活性化プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ①既存路線の見直しによる再編 ②新たな公共交通システムの導入 ③既存交通資源を活用した再編 ④交通結節機能の充実 ⑤運賃等の料金制度の見直し
将来のまちの姿を見据え、「まちづくり」を支援する公共交通を目指します	<ul style="list-style-type: none"> ①中心市街地でのバス乗降者数の増加 ②公共交通利用による外出率の向上 	市民協働プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ①地域主体の交通サービスの導入 ②多様な機関と連動したサービス展開 ③公共交通について議論する場の創出
人・文化の「交流」を支援する交通ネットワークを形成します	<ul style="list-style-type: none"> ①交通機関同士の接続性に対する不満度の減少 	
市民とともに考え、築き、育む「協働型」の公共交通を目指します	<ul style="list-style-type: none"> ①地域における協議会・検討会の設置数 ②公共交通による通勤・通学者の割合 	環境改善・利用促進プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ①交通環境の改善 ②交通案内の改善・充実 ③公共交通に対する市民意識の醸成
誰もが「わかりやすく・利用しやすい」公共交通環境づくりを行います	<ul style="list-style-type: none"> ①公共交通利用促進策の取り組み件数の増加 ②公共交通利用による外出率の向上(再掲) 	

一方、自家用車の普及、人口減少や過疎化、少子化の進展などに伴い公共交通を利用する人は全国的に減少し、本市も例外ではありません。特に路線バスの状況をみると、昨年度の利用者は平成十九年度と比較し約五七％に落ち込みました。路線バス利用者の減少はバス事業者の経営に影響を与え、減便や路線廃止などのサービスの低下につながることが懸念されます。また、運転手が高齢化し将来的に担い手が不足するなどの問題も出てきています。バス事業者は内部経費の削減や運行本数の見直しなど、徹底した合理化に取り組んでいます。厳しい経営を余儀なくされています。

そこで県と市では、生活を支える公共交通を維持確保するため、三十二の赤字路線に対し補助金を交付し、その額は年間一億五千万円前後で推移しています。しかし、利用者数が減り続ければ、財政負担が増えるとともに、運行数が減ったり路線が廃止されたりして、さらに不便になる可能性があります。公共交通を将来へ向けて持続するための取り組みが求められています。



交流活性化プロジェクト 事例

新しい集落地域の再生へ
「小さな拠点」づくり

■朝日地域の生活交通再編が急務

朝日地域を通る路線バス5路線のうち、利用者の減少と収支悪化が深刻な大網・大鳥地区方面の4路線が来年4月に廃止される予定です。そのため、高校生の通学や高齢者の通院、買物の利便性を維持するため、市営バスなど代替手段を検討しています。また、大網地区をモデル地区とし「小さな拠点」づくりを進めています。

■「小さな拠点」づくりとは

過疎化が進む複数の小さな集落の住民が主体となって、生活に必要なサービス機能の集約、活動・交流拠点の強化、周辺との交通ネットワーク化など、新しい地域運営の仕組みを作る活動です。

大網地区では5集落から委員が集まり、共通の課題である地区内の交通手段の導入と買物ができる場所作りに取り組んでいます。

市民協働プロジェクト 事例

市民協働型の市営バス
「にこにこバス」

■羽黒地域市営バス「にこにこバス」

昭和58年と平成19年に廃止された民間路線バスの代替路線として「上川代・小増川線」「今野線」の2路線が隔日で運行されています。

24年にバス路線沿線の住民が羽黒地域市営バス利用拡大協議会を設立。25年に愛称を募集し「にこにこバス」に決まりました。

■これまでの取り組み

「にこにこバスの日」の制定や体験乗車の実施、温泉施設と連携したポイントカードの発行など利用者の視点でサービス充実や運行経路・時間などの見直しを行い、利用者数が増加しています。

◎利用者数 平成24年…1,185人
平成27年…1,696人

環境改善・利用促進プロジェクト 事例

バスを知ってもらおう・試してもらおう運動
バス乗り方教室・お試し体験バス

■バスを身近に感じる機会として

意外と知られていない路線バスの乗り方や車内マナーなどを体験するとともに、渋滞解消や地球温暖化防止にも役立つ公共交通の大切さを学ぶことを目的に、幼児・児童や学生、地域住民等を対象に実施しています。

昨年度は5つの保育園や学校で行い、延べ1,011人が参加しました。



高齢者等のバス運賃負担を軽減

高齢者いきいきパス・割引定期

■バスの利用拡大のための割引サービス

過疎地域に住む高齢者を対象に、地域・路線限定型のバス定期券「高齢者いきいきパス」が発行されています。また、家族で使える「エコ定期券」や運転免許証返納者対象の「返納者割引定期券」等の割引サービスが展開されています。



地域公共交通網形成計画

市では地域特性や公共交通を取り巻く状況を踏まえ、市民とともに支える持続可能な公共交通網の再構築を目指して、三月に「地域公共交通網形成計画」を策定しました。

この計画は、中心市街地と地域拠点、そして周辺の各集落を結ぶバス路線の再編と交通結節点の整備に重点を置きながら、まちづくりとの連携や観光交流の視点を踏まえたもので、本市の公共交通の将来像を実現するための基本計画に位置付けられています。

同計画では、公共交通を適切に再編するため五つの目標を定めました。そして、目標を達成するために「交流活性化」「市民協働」「環境改善・利用促進」の三つのプロジェクトに取り組みます。市民、交通事業者、関係機関、行政が一体となって、既存路線を見直し、市民や来訪者が生き生きと交流できる交通環境を確保するとともに、地域や企業等との協働による利便性の向上や利用促進を図ります。また、交通渋滞の緩和や二酸化炭素削減につながる公共交

助け合いの心がにこにこバスを走らせています



小林源 さん

平成24年から羽黒地域市営バス「にこにこバス」利用拡大協議会の副会長を、26年から同協議会の会長を勤める。

私たちの協議会はバス路線の区長や老人クラブ代表、自治振興会会長等50人がメンバーです。

協議会設立当初は会議のため毎週のように集まりました。今でも2か月に一度は集まって、路線の見直しやバス停が増やせないか、また運行日や運行時間の検討を行っています。

バスの利用拡大のためには地域の声がかかせません。住民からは路線バスがなくなってしまうことを心配する声が聞こえてきます。地域の高齢者や体が不自由な人のためにも、バスを無くすことはできません。

バスを存続していくためにも、地域のみならず他人を「思いやる心」と「地域の絆」を大切に、にこにこバスの利用拡大に取り組んでいきます。

親しみやすい乗り物を目指して



中村美穂 さん

庄内交通(株)乗合バス課課長代理。バスの乗り方教室での講師をはじめ、利用者視点のバスマップの作成に携わる。

路線バスの乗り方を教えています。小学校低学年のお子さんでも、乗り方や降り方、整理券の見方などすぐに覚えるようですね。観光バスと違いミラーやセンサーが多くあることや、運転手のアナウンスが大切なことなど安全面の話も興味を持って聞いてくれます。

乗り方を覚えたので「今度、家族と一緒に路線バスに乗る」と話してくれると、とてもうれしいですね。小さい頃のバスに乗った経験は、きっと大きくなっても役に立つと思います。

バスに親しんでいただくことを第一に考えています。運転手もその日の運行状況をアナウンスで伝えるなど、気持ちよくバスに乗ってもらえるよう努めています。ぜひバスを利用してみてください。

利用者の声



- 通常の定期券よりも安くて助かります。いきいきバスは買物や通院のために使いますが、一番多いのは温泉施設に行き、温泉や友達との会話を楽しむことです。(熊出地区在住の女性の方)
- 近くに店がなく、訪問販売者も不定期なので、生鮮食品を求めにいきいきバスを利用して助かっています。(いきいきバス利用者アンケート)
- いきいきバスがないと通院もままならないので、ありがたいです。(同アンケート)
- 1人暮らしでバスだけが頼りです。これからもいきいきバスを続けてください。(同アンケート)

利用者の声



野尻健太 さん

鶴岡中央高校 2年生
越沢地区在住

通学、休日の部活動、友達との遊び、通院などで年間300日はバスを利用していると思います。バスと一緒に乗っている他の高校生とも仲良くなれる交流の場です。また、高校まで夏は1時間、冬は1時間30分かかるので、勉強や読書をすることもあります。自分たちの次の世代のためにもバスはずっと走ってほしいです。

公共交通をもっと利用しよう

公共交通に対する意識の醸成を目指します。

公共交通を確保する重要性は、ますます高まっています。

公共交通を維持するためには、車ばかりに頼らず、一人ひとりがその時々に応じて、バスや自転車、徒歩など様々な移動手段を「かしく」使う取り組みを進めていく必要があります。同計画では全国的に実施されている「ノーマイカーデー」の制定の検討や、学生や幼児・児童を対象に路線バスの乗り方や車内マナーを学んでもらう教室などを実施し、公共交通の利用を促す取り組みを充実していきます。

「あつて当たり前」ではなく、皆で「築き・育み、地域とともにあり続ける」公共交通を目指するため、バスをはじめとする公共交通の利用を広げていきましょう。